

■ 創意工夫・独創性など施行者が提案する評価指標（案）

提案 1 生物多様性への配慮

【外構設計の実設計コンセプト】

○虎ノ門・六本木地区の地区計画区域内では、人々が集いふれあう場として広場や緑地を整備しており、緑溢れる都市空間が創出されています。
 ○虎ノ門・六本木地区市街地再開発事業（仙石山ヒルズ）では、広場や緑地について、人々が集いふれあう場として積極的に緑化するだけでなく、新たな提案として、緑化の質にも配慮し、地域植生の再生や生き物の住みやすさへの貢献、多種多様な生きものの為の環境づくりを創出する「生物多様性」に向けた取組みを計画、実施しています。

【事業完了後】

○事業完了後においても、経年で生物多様性に向けたモニタリング調査を実施し、動植物の生息状況など生物多様性の観点からみた、保全管理について検討を継続しています。
 ○港区においても生物多様性の取組みを推進しており、虎ノ門・六本木地区市街地再開発事業（仙石山ヒルズ）における保全管理の取組みから得られる知見は、今後の生物多様性に向けた街づくりの先進事例として極めて有効な事例として評価できます。

緑の質に配慮した緑化計画

1. 在来種・自然植生をベースとした緑地	計画地の地域植生を再生する
2. まとまりのある緑地	緑化効果を高め周囲の緑と結ぶ
3. 緑被ボリュームの高い立体的な緑地	生きものの住みやすさに貢献する
4. 枯れ木や落ち葉といった特殊な環境要素への配慮	多種多様な生きものの為の環境づくり

■ 生物多様性への配慮

①生きもの
 小鳥や昆虫などの生きものがやってくる空間をめざします。
 (写真: 評価種のひとつであるこげら)

②地域植生
 地域種を主として植栽を構成しています。生物多様性の保全に役立つだけでなく、東京に固有の景観をつくり出すことにも役立ちます。
 (写真: しいのき坂のタブノキ)

③つながりとまとまり
 緑の空間構成は、連続性とまとまりに配慮して設計しています。また、高木から低木・地被類のように、階層の明確な緑の構成としています。これらの工夫により、生きものの生息に適し、かつ美しい景観をつくります。

④楽しむ緑
 敷地内の緑は、生きものを受け入れる空間であるとともに、人のための庭園でもあります。人が入って緑に触れることのできる空間づくりをしています。

⑤枯木などの仕掛け
 いきものすみかとなる枯木を設置するなどの工夫をしています。

⑥土壌や材料
 敷地の表土を保存し、再利用することで、従前の環境を再生することに役立ちます。また、植栽材料も近郊(東京・埼玉)から調達しています。

⑦エコロジカル・ネットワーク
 街づくりを通じて、地域に緑の骨格軸をつくることをめざしています。街全体に緑が繋がる優れた景観となるとともに、いきものの生息や移動にも適した空間となります。

⑧第三者評価
 JHEP ECO-JAPAN AAA
 様々な取組みを情報開示するにあたり、第三者の評価を受け、情報の公平性と信頼性を高めます。

○仙石山プラザ



○しいのき坂



○こげらの庭



○大げやき広場



○自然体験学習イベントの開催



仙石山ヒルズにおける各季節における鳥類の出現状況

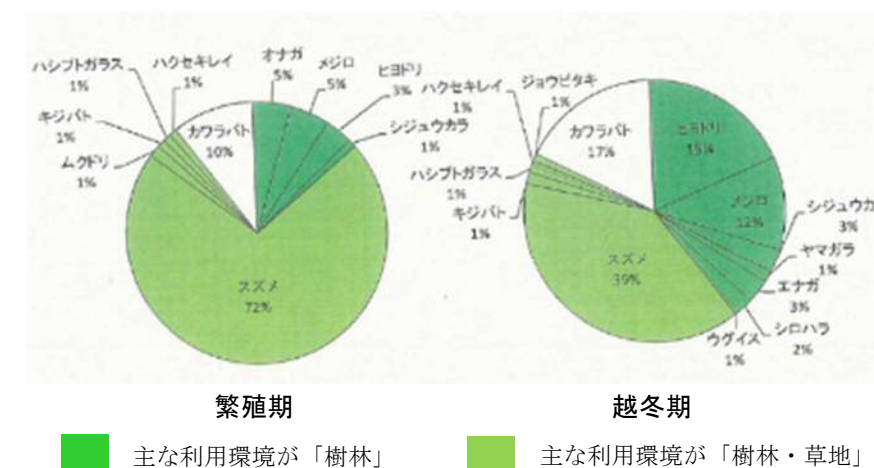


各季節における鳥類の出現状況

種名	繁殖期				夏期				越冬期				都区内で一般的な渡り区分
	5月		6月		7月		8月		12月		1月		
	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	
ヒヨドリ	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	留鳥
メジロ	○	○			○	○			○	○	○	○	
オナガ	○	○	○	○		○							
シジュウカラ			○		○			○	△	○	○	○	
キジバト			○	○	○					△	○	○	
スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ハシブトガラス	○		○			○						○	
ハクセキレイ				○						△	○		
ムクドリ			○										
ヤマガラ						○		△	○	○	△		
ウグイス											○		
ジョウビタキ										○	○		
シロハラ										○	○		
エナガ										△	範囲外		
カワラバト（ドバト）	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	外来種

○：範囲内・センサス時間内における確認 △：範囲内：センサス時間外で確認

繁殖期と越冬期における鳥類の優占度



【参考】モリタリング調査事例
 ○スズメに関しては、繁殖期、越冬期とも個体数密度は非常に高く、例年増加傾向にある。他地域の住宅地や公園緑地をはるかに上回る水準で推移している。
 ○要因としては、芝生の管理強度を下げた結果、ハコベやイネ科草本といった野草が増加し、その葉や種子などスズメの食物となるものが繁殖期に多く存在したことが考えられる。

動植物モニタリング調査（鳥類・在来種）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ルートセンサスによる確認種数	13 種	16 種	13 種	14 種
都区内で一般的に留鳥とされる種	(9 種)	(10 種)	(9 種)	(9 種)

生物多様性における保安全管理上の課題・対策（鳥類）

課題	対策
広い良質な広葉樹林を必要とし、昆虫食であるいくつかの種が出現しない	<ul style="list-style-type: none"> 殺虫剤等の使用方法を検討（H28） 可能な限り昆虫種の成育を許容するような外構管理（H29）
現況の林床が明るすぎる	<ul style="list-style-type: none"> 低木の高さを確保し、鳥類の隠れ場所となるような林床の育成
地表を覆う落葉落枝が少なく、土壌動物等が貧弱	<ul style="list-style-type: none"> ストックヤード以外の場所においても、落葉落枝の集積を継続

提案2 子育て支援施設の整備計画

【従前の課題】

○平成19年頃から、港区内では子育て世帯の増加に伴い待機児童が多くなり、港区では子育て支援施設として認可保育園の誘致を積極的に行っていました。
 ○市街地再開発事業の参加組合員（森ビル株式会社）においても、当該地域を含め子育て世帯が増え、それに伴い待機児童も増加していることを把握しており、当該事業においても保育園の整備について検討をしていました。

【取組み内容】

○保育園の整備にあたっては、参加組合員が保留床を活用し整備することとし、保育園事業者や港区の保育園の認可を所管する部署と相談・協議を重ね、保育園の整備を実現しています。
 ○保育園の配置は、当事業で整備した広場の前に保育園（分園）を配置し、子供たちは広場を園庭としても利用できるように工夫されています。
 ○なお、開園当初は、高層棟の住宅居住者などから、大げやき広場での子どもの遊び声に対する厳しい意見が多数ありましたが、現在は、居住者と保育園とが歩み寄り、自治会の活動を通して良好な関係にあります。
 ○現在においても港区内において待機児童は一定数いる状況ですが、当該保育園は待機児童解消の一旦を担っています。
 （参考：待機児童数芝地区15名、麻布地区17名 ※平成30年4月1日時点）

施設計画と外構計画を一体的に整備した取組み



○認可保育園の配置計画と概要



○本園



○分園



○参考）広場設計の事業協議資料



○広場は、「地域の憩いのひろば」をコンセプトに、子どもの遊び場としての利用を想定し、芝生地を主体とした柔らかくオープンな空間を確保しています。

○木陰で憩う人や、子どもをも守るお母さんのためにベンチなどの休憩施設を設置しています。

○まちの南側には、ランドマークとなる大げやきを配置しています。